

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	学力パワーアップ総合推進事業		
所管課	教育委員会指導部学校指導課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成15年度		本市学力実態調査(平成18~19年度継続実施)及び全国学力・学習状況調査, 生活習慣・学習定着度調査で明らかになった課題を克服するため。
根拠法令			
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画		

基本計画			
施策コード	主	1-8-1	
	再		
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成		
事業群	「生きる力」を持った子どもの育成		

事業区分	重点
	学校の教育活動に対する満足度

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	福岡市立の小・中学生
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	平成16年度から実施してきた「学力づくりパワーアップ支援事業」における実施校の成果, および平成20年度から実施してきた「学力パワーアップ総合推進事業」における推進拠点校の成果を, すべての小中学校で活用し, 本市児童生徒の着実な学力向上を図る。

実施内容(手段)	令和元年度, 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての小中学校において, 学力向上推進プランを策定し, 検証改善サイクルに基づいた実効性のある学力向上の取組を推進した。 ○全国学力・学習状況調査の結果に基づいた, 各学校の指導資料を作成し, 担当指導主事の学校訪問による指導を実施した。 ○すべての小学校に国語・算数, すべての中学校に数学の共通教材を配備し, 授業や「ふれあい学び舎事業」などにおいて活用した。 ○学校と地域の「共育」による, 放課後補充学習「ふれあい学び舎事業」をすべての小学校144校で実施した。

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計	97,690		
歳入	特定財源	29,606	
	一般財源	68,084	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳入	歳出合計	89,256	140,034
	特定財源	26,926	44,021
	一般財源	62,330	96,013

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)	
	すべての小中学校において, 学力向上推進プランを策定し, 学力向上の取組を推進する。 すべての小学校144校で, 放課後補充学習「ふれあい学び舎事業」を実施する。 すべての小学校に国語・算数, すべての中学校に数学の共通教材を配備する。	すべての小中学校が, 自校の学力の課題に応じた実効性のある取組を実施する。	「学習定着度調査」における正答率40%以上の児童生徒の割合が向上する。	すべての小中学校が, 自校の学力の課題に応じた実効性のある取組を実施することで, 福岡市の児童生徒の学力が向上する。	
	指標の内容	実績	目標	実績	目標
	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
活動の指標	学力向上に係る取組状況調査 検証改善サイクルの確立(小中学校)	目標	100.0%	100.0%	R6年度
		実績	89.7%	92.5%	100.0%
		達成率	89.7%	92.5%	100.0%
	学力向上に係る取組状況調査 補充学習の推進(小中学校)	目標	95.0%	100.0%	R6年度
		実績	98.1%	97.2%	100.0%
		達成率	103.3%	97.2%	100.0%
成果の指標(KPI)	「学習定着度調査」における正答率40%以上の児童の割合(小学校)	目標	90.0%	90.0%	R6年度
		実績	85.6%	77.4%	90.0%
		達成率	95.1%	86.0%	90.0%
	「学習定着度調査」における正答率40%以上の生徒の割合(中学校)	目標	88.5%	88.5%	R6年度
		実績	83.7%	75.8%	88.5%
		達成率	94.6%	85.6%	88.5%

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分	重点
------	----

事業名	学校生活支援事業		
所管課	教育委員会指導部発達教育センター	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成20年度		平成19年度より「特別支援教育支援員等の配置」事業として、校内の支援体制の充実を図ってきたものであるが、特別支援学級の児童生徒だけが支援の対象であるという誤解を受ける場合があることなどから、令和元年度から「学校生活支援員」へと名称を変更し、配慮を要する児童生徒が支援をより受けやすい体制づくりを目指すこととした。
根拠法令			
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画		

基本計画				
施策コード	主	1-8-1		施策成果指標
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	「生きる力」を持った子どもの育成			学校の教育活動に対する満足度

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	市立小中学校等に在籍する配慮を要する児童生徒
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	小中学校等に在籍する配慮を要する児童生徒の学校生活や学習活動上のサポートなどを行うため、学校生活支援員を配置し、校内での支援体制を充実する。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員の配置希望調査を2回実施。 ・希望調査から優先度を判断し配置校を選定。 ・支援員236人を配置。 ・支援員研修を4回開催。 ・研修会のアンケートで学校への要望をあわせて聞き、教頭説明会等で学校へ周知。

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計		156,833
歳入	特定財源	41,081
	一般財源	115,752
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
歳出合計	156,216	322,674
歳入	特定財源	0 77,478
	一般財源	156,216 245,196

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																														
	<ul style="list-style-type: none"> ○配慮を要する児童生徒に対する支援 ○支援対象となる児童生徒が所属する学級の学習活動の支援 ○当該学級で使用する教材づくり等の補助 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒が学校生活を円滑に過ごすことができ、学習活動が充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○配慮を要する児童生徒を支える学級づくりの実現 ○教育効果が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の推進 ○インクルーシブ教育の推進 																																																														
	活動の指標	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)																																																													
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配置人数</td> <td>200</td> <td>213</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">243</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>235</td> <td>236</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">300</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>117.5%</td> <td>110.8%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">研修の開催回数</td> <td>目標</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>4</td> <td>4</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	配置人数	200	213	243	R6年度	実績	235	236	300	達成率	117.5%	110.8%	研修の開催回数	目標	4	4	R6年度	実績	4	4	4	達成率	100.0%	100.0%	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">配置率 (配置校数/配置希望校数)</td> <td>目標</td> <td>186</td> <td>196</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">100.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>186</td> <td>196</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	配置率 (配置校数/配置希望校数)	目標	186	196	100.0%	実績	186	196	達成率	100.0%	100.0%		目標			R年度	実績			達成率	
年度	実績			目標																																																														
	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																														
配置人数	200	213	243	R6年度																																																														
実績	235	236		300																																																														
達成率	117.5%	110.8%																																																																
研修の開催回数	目標	4	4	R6年度																																																														
	実績	4	4	4																																																														
	達成率	100.0%	100.0%																																																															
年度	実績		目標																																																															
	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																														
配置率 (配置校数/配置希望校数)	目標	186	196	100.0%																																																														
	実績	186	196																																																															
	達成率	100.0%	100.0%																																																															
	目標			R年度																																																														
	実績																																																																	
	達成率																																																																	

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

		事業区分	重点
事業名	アントレプレナーシップ教育		
所管課	教育委員会指導部学校指導課	基本計画 施策コード 主 1-8-1 再 分野別目標 一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている 施策 自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成 事業群 「生きる力」を持った子どもの育成 施策成果指標 学校の教育活動に対する満足度	
開始年度	平成27年度		
根拠法令			
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画		
	背景		
		事業を始めた理由(きっかけ)は何か 急激に変化する社会に柔軟に対応する力と態度を身に付けるために、既存のキャリア教育に「アントレプレナーシップ教育」を導入し、より質の高いキャリア教育をめざすことで、児童生徒のチャレンジマインドの一層の育成を図る。	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市立の小・中学生
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 未来の福岡を創生する子どもたちが将来に夢や希望をもち、新しいことにチャレンジする意欲を育成する。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 【小学校】 ○各界著名人による「夢の課外授業」を「二十一世紀倶楽部」と連携して8校で実施 ○ジュニア・アチーブメント(JA)の帽子の仕入れや製造、販売などの経営シミュレーションプログラムCAPSを全小学校で実施 【中学校】 ○未来を切り拓くワークショップを中学校23校で実施
-----------------	--

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計	5,097		
歳入	特定財源	0	
	一般財源	5,097	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳出合計	5,667	5,478	
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	5,667	5,478

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	CAPS、夢の課外授業、未来を切り拓くワークショップを実施する。	意思決定力・分析力等を育成する授業が行われる。 各界著名人による講話や体験活動を取り入れた授業が行われる。 起業家の講話を通して、将来に対する生徒同士の対話的な学習が充実する。	将来に夢や希望をもち、新しいことにチャレンジする意欲を持つことができる。	全ての小中学校で、学校主体によるより質の高いキャリア教育を継続的に行うことができるようになる。	
	指標の内容	実績	目標	実績	目標
	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
活動の指標	目標	23	23	23	R6年度
	実績	23	23	23	88.5
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	88.5
活動の指標	目標	144	141	140	R6年度
	実績	140	141	140	76.5
	達成率	97.2%	100.0%	100.0%	76.5

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	小学校外国語活動支援事業	
所管課	教育委員会指導部学校指導課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 小学校外国語活動の充実を図り、児童のコミュニケーション能力の素地を育てるため。
開始年度	平成15年度	
根拠法令		
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	1-8-2	学校の教育活動に対する満足度	
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	国際教育の推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	福岡市立の小学生3・4年生
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	外国の言語や文化に対する体験的な理解や、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、児童のコミュニケーション能力の素地を養う。

実施内容(手段)	令和元年度, 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	これまで、すべての5・6年生の外国語活動に35時間GT(ゲストティーチャー)を配置していたが、外国語活動の早期化により、平成30年度より、すべての3・4年生の外国語活動に8時間GTを配置し、令和元年度は、3年生を拡充し、年間18時間配置。

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計	31,722		
歳入	特定財源	7,227	
	一般財源	24,495	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳出合計	20,176		33,627
	特定財源	6,699	11,058
歳入	13,477		22,569
	一般財源		

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)		
	小学校3・4年生にGTを配置し、担任とGTによる外国語活動を行う。 中学校ブロックでの公開授業研修会を行う。	授業中の英語による実践的なコミュニケーション活動が充実する。 指導法等の共通理解が図られる。(小中連携)	積極的に英語を聞いたり、話したりするようになる。 教師の指導法が改善される。	小学校外国語活動において担任の指導力が向上し、ICT等を活用し、効果的な外国語活動の指導を行うことにより、児童のコミュニケーション能力の素地が育つ。		
	指標の内容	実績	目標	実績	目標	
	活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	144	144	144	R年度
実績		144	144	144		
達成率		100.0%	100.0%			
年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度		
成果の指標(KPI)	目標	80.0%	80.0%	80.0%	R6年度	
	実績	79.9%	77.1%		85.0%	
	達成率	99.9%	96.4%			
	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	
成果の指標(KPI)	目標	50.0%	50.0%	50.0%	R6年度	
	実績	46.9%	49.2%		55.0%	
	達成率	93.8%	98.4%			

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	ネイティブスピーカー委託事業	
所管課	教育委員会指導部学校指導課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 英語教育の充実改善を図り、福岡市の中学生、高校生に生きた英語を学ばせる必要があったため。
開始年度	平成23年度	
根拠法令		
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	1-8-2	学校の教育活動に対する満足度	施策成果指標
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	国際教育の推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	福岡市立の中・高校生
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	生徒の英語によるコミュニケーション力、行動力、発信力を向上させる。

実施内容(手段)	令和元年度, 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<ul style="list-style-type: none"> ○(株)インタラック西日本・(株)アウルズに委託し、福岡市内の中学校の全学級に年間35時間外国人英語指導講師を配置した。 ○中3年を対象に、英語チャレンジテストを実施した。 ○英語の発信力の向上のために、全中学校を対象に、スピーチコンテストを実施した。 ○海外生活経験者だけに限定していたB部門だけでなく、A部門のスライド発表の部を設定し、全員がスライドを使ったスピーチとそれについての応答を行うように変更した。

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計	279,184		
歳入	特定財源	0	
	一般財源	279,184	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳出合計	304,269	281,905	
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	304,269	281,905

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)	
	中・高等学校にNSを配置し、英語科教員とNSによる授業を行う。	授業中の英語による実践的なコミュニケーション活動が充実する。	英語によるコミュニケーション力、行動力、発信力(英検3級相当以上の割合)が向上する。	グローバルな人材が育成される。	
	指標の内容	実績		目標	
	活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度
スピーチコンテストの参加校数	目標	69	69	69	R6年度
	実績	69	69		69
	達成率	100.0%	100.0%		
	目標				R 年度
	実績				
	達成率				

成果の指標(KPI)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)			
	英語によるコミュニケーション力、行動力、発信力(英検3級相当以上の割合)が向上する。	グローバルな人材が育成される。			
	指標の内容	実績		目標	
	英語チャレンジテストにおける3年生英検3級相当以上の生徒の割合	年度	H30年度	R1年度	R2年度
	目標	60.0%	60.0%	60.0%	R6年度
	実績	54.0%	53.7%		75.0%
	達成率	90.0%	89.5%		
	目標				R 年度
	実績				
	達成率				

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業	
所管課	教育委員会指導部教育相談課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 平成20年度に国の事業として開始、その後も引き続き、国の事業として実施されている。 子どもが抱える課題の背景は、複雑に絡み合っており、福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーなどが課題の内面に手を加え支援していくことが求められている。
開始年度	平成20年度	
根拠法令	なし	
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	1-8-3	学校の教育活動に対する満足度	
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	いじめ・不登校等対策の充実		施策成果指標	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	いじめ・不登校をはじめとした様々な諸問題を抱えた児童生徒とその保護者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	多様な悩みを抱えた児童生徒及びその保護者を支援し、児童生徒の社会的自立に資する。

実施内容(手段)	令和元年度, 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	・児童生徒が日常生活で生じる様々な支障や困難に対して、学校を基盤にした支援活動を行い課題解決を図った。 ・拠点校スクールソーシャルワーカーを各区に1名ずつ配置し、拠点校スクールソーシャルワーカー7名+嘱託スクールソーシャルワーカー62名の合計69名を配置した。関係機関と連携しながら児童生徒や保護者の課題改善に向けた支援を行った。

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計	261,868		
歳入	特定財源	98,241	
	一般財源	163,627	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳入	歳出合計	276,835	272,671
	特定財源	105,483	99,817
	一般財源	171,352	172,854

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 拠点校スクールソーシャルワーカー(SSW)を各区に1名ずつ配置し、拠点校SSW7名+嘱託SSW62名の合計69名を配置し、関係機関と連携しながら児童生徒や保護者の課題改善に向けた支援を行う。	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか) 児童生徒が日常生活で生じる様々な支障や困難に対して、学校を基盤にした支援活動を行い課題解決を図る。 学校と関係が切れている家庭への介入を行い、関係機関と連携しながら、家庭の支援を行い、子どもの生活環境を改善させることができる。	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか) 生活環境の改善等により、不登校等の状況が改善され、少しずつ登校できるようになる。	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか) 不登校・不登校傾向のある児童生徒や保護者の様々な環境等が改善されることで、学校へ登校する機会が増え、社会的自立につながり、子どもの未来をはぐくむことになる。																																																																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">スクールソーシャルワーカーの配置人数</td> <td>目標</td> <td>69</td> <td>69</td> <td rowspan="2">71</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>69</td> <td>69</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">スクールソーシャルワーカーによる介入率</td> <td>目標</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> <td rowspan="2">30.0%</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>24.40%</td> <td>25.17%</td> <td>30.0%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>81.3%</td> <td>83.9%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	スクールソーシャルワーカーの配置人数	目標	69	69	71	R6年度	実績	69	69	75	達成率	100.0%	100.0%			スクールソーシャルワーカーによる介入率	目標	30.0%	30.0%	30.0%	R6年度	実績	24.40%	25.17%	30.0%	達成率	81.3%	83.9%			<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">不登校児童生徒の復帰率 ※R1は速報値</td> <td>目標</td> <td>60.0%</td> <td>65.0%</td> <td rowspan="2">65.0%</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>44.8%</td> <td>47.9%</td> <td>65.0%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>74.7%</td> <td>73.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	不登校児童生徒の復帰率 ※R1は速報値	目標	60.0%	65.0%	65.0%	R6年度	実績	44.8%	47.9%	65.0%	達成率	74.7%	73.7%				目標				R 年度		実績						達成率				
	指標の内容			年度	実績		目標																																																																														
		H30年度	R1年度		R2年度	最終年度																																																																															
スクールソーシャルワーカーの配置人数	目標	69	69	71	R6年度																																																																																
	実績	69	69		75																																																																																
	達成率	100.0%	100.0%																																																																																		
スクールソーシャルワーカーによる介入率	目標	30.0%	30.0%	30.0%	R6年度																																																																																
	実績	24.40%	25.17%		30.0%																																																																																
	達成率	81.3%	83.9%																																																																																		
指標の内容	年度	実績		目標																																																																																	
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																
不登校児童生徒の復帰率 ※R1は速報値	目標	60.0%	65.0%	65.0%	R6年度																																																																																
	実績	44.8%	47.9%		65.0%																																																																																
	達成率	74.7%	73.7%																																																																																		
	目標				R 年度																																																																																
	実績																																																																																				
	達成率																																																																																				
成果の指標(KPI)																																																																																					

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名		事業区分	重点
スクールカウンセラー等活用事業		基本	計画
所管課	教育委員会指導部教育相談課	施策コード 主 1-8-3 再 分野別目標 一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている 施策 自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成 事業群 いじめ・不登校等対策の充実	学校の教育活動に対する満足度 施策成果指標
開始年度	平成8年度		
根拠法令	なし		
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画		
事業を始めた理由(きっかけ)は何か 平成8年度、児童生徒の多様な悩みや相談に対応するため、3名のスクールカウンセラーでスタートし、平成13年度からは国の補助金対象となった。心の教室相談員に関しては、平成10年度より実施。			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	いじめ・不登校をはじめとした様々な諸問題を抱えた児童生徒とその保護者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	いじめ・不登校をはじめとした様々な課題を抱えた児童生徒とその保護者に対して、カウンセリングを通して心のケアを行い、児童生徒の学校復帰や社会的自立に資するもの。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を抱える児童生徒及び保護者に対してカウンセリングを通して、心のケアを行った。 ・令和元年度は、スクールカウンセラーを、小呂・玄界小中学校を除く小学校142校と中学校67校、市立高校4校、特別支援学校8校の計221校に配置した。 ・心の教室相談員を、小呂・玄界小中学校に配置した。

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計	121,190	
歳入	特定財源	40,251
	一般財源	80,939
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	H30	R2
歳出合計	122,231	137,808
歳入	特定財源	39,923
	一般財源	82,308
	92,201	

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)		②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)		③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)		④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)						
	活動の指標	スクールカウンセラーを、小呂・玄界小中学校を除く小学校142校と中学校67校、市立高校4校、特別支援学校8校の計221校に配置する。 心の教室相談員を、小呂・玄界小中学校に配置する。	様々な悩みに対して、子どもや保護者等にカウンセリングを行い、心のケアを行う。 学校組織の一員として、専門性を生かしながら、学級担任やスクールソーシャルワーカー等と連携しながら、児童生徒が登校できるよう導く。	適切な支援につながり、会話が增えたり、子どもの表情よくなる。 不登校児童生徒が少しずつではあるが、学校に登校する機会が増える。	不登校児童生徒の様々な不安が解消することで、学校へ登校する機会が増え、社会的自立につながり、子どもの未来をはぐくむことになる。								
	指標の内容	実績		目標		実績		目標					
		年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度		
	スクールカウンセラー等の配置校	目標	221	225	225	R6年度	不登校児童生徒の復帰率 ※R1は速報値	目標	60.0%	65.0%	65.0%	R6年度	
		実績	221	225				実績	44.8%	47.9%		65.0%	
		達成率	100.0%	100.0%				達成率	74.7%	73.7%		65.0%	
	スクールカウンセラー等の支援による改善・復帰率	目標	50.0%	50.0%	50.0%	R年度		目標				R年度	
		実績	48.6%	41.0%			実績						R年度
		達成率	97.2%	82.0%			達成率						R年度

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

		事業区分	重点	基本計画				
事業名	いじめゼロプロジェクト			施策コード	主	1-8-3	施策成果指標	学校の教育活動に対する満足度
所管課	教育委員会指導部生徒指導課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か					
開始年度	平成25年度		いじめ問題については、社会的にも早急に対応すべき問題となっている。いじめ問題に対して、事後に対処するという発想から、未然防止に力をいれる必要がある。					
根拠法令								
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画							
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	いじめ・不登校等対策の充実			事業群	いじめ・不登校等対策の充実			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	令和元年度, 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	事業費(千円)		
	児童生徒 保護者	(1)いじめ根絶をめざした「いじめゼロ取組月間」を実施 (2)8月下旬に「いじめゼロサミット2019」を開催 ・取組月間の成果と課題を報告 ・いじめ根絶を目指したシンポジウム ・今年度のテーマを「みんなでスクラム」と設定し、みんなで支え合い、助け合いながら、いじめの未然防止、早期発見、即対応を進めていく。中学校ブロックでの取組をより強化し、地域との連携も視野に入れていく。 (3)いじめゼロ実現プロジェクト ・サミットを受けて各学校での取組を実施 ・報告書を提出	令和元年度決算額(見込額)		
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか		前年度決算額・翌年度予算額		
	いじめ問題に対する児童会・生徒会等の活動を活性化させる。 保護者・地域に啓発活動を行い、子どもたちを支援する意識を高め、その体制を構築する。		年度	H30	R2
			歳出合計	2,820	
			歳入 特定財源	0	
			歳入 一般財源	2,820	
			歳出合計	2,884	2,767
			歳入 特定財源	0	0
			歳入 一般財源	2,884	2,767

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)		
	・1学期に、全小中学校において、児童会・生徒会等が主体となった、「いじめゼロ取組月間」を実施する。 ・2学期にサミットを開催し、全小中学校でどんなことを取り組むか話し合う。 ・サミット以降、いじめゼロ実現プロジェクトを実施する。	・各学校で工夫して取り組みを行った結果、取り組みのよさに気づき、継続して実施する。 ・各学校で行った取り組みについて保護者・地域へ発信しようとする。	・いじめ問題に対する児童会・生徒会等の活動が活性化する。 ・保護者・地域に啓発活動を行い、子どもたちを支援する意識が高まる。	・全学校で、児童会・生徒会が活性化し児童生徒が主体となった「いじめ防止」の取組が行われている。 ・保護者・地域・企業等が子どもたちを支援する意識が高まり、いじめ防止の体制が構築される。		
活動の指標	指標の内容	実績		目標		
		年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
	児童生徒が主体となったいじめ防止の取組が行われた学校数	目標	213校	213校	213校	R6年度
		実績	213校	213校	213校	213校
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				R 年度
		実績				
		達成率				
成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
		年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
	全国学力・学習状況調査で「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答した小6と中3の児童生徒の割合	目標	100.0%	100.0%	97.0%	R6年度
		実績	96.5%	96.7%	97.0%	97.0%
		達成率	96.5%	96.7%		
		目標				R 年度
		実績				
		達成率				

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分		重点
事業名	いじめ・不登校ひきこもり対策支援事業	
所管課	教育委員会指導部生徒指導課	基本計画 施策コード 主 1-8-3 再 分野別目標 一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている 施策 自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成 事業群 いじめ・不登校等対策の充実 実施成果指標 学校の教育活動に対する満足度
開始年度	平成21年度	
根拠法令		
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画	
	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 平成19年同時不登校児童生徒数は、1,100人を超えており、早急な対応が求められていた。平成20年度の「不登校ひきこもり対策支援会議」の提言をもとに、平成21年度から、新たな不登校を生まないための支援策や不登校児童生徒への支援策等を継続して実施している。	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市立学校の小学4年生から中学3年生までの児童生徒 教員
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか いじめや不登校をはじめとする、子どもが抱える様々な課題やその兆候をいち早く把握し、早期対応を行う。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか (1)専任で不登校生徒に関わる不登校対応教員を全中学校(小呂中玄界中を除く)に配置。 (2)児童生徒の学級集団アセスメント及びいじめや不登校の未然防止・早期発見のために、小学校4年生～中学校3年生を対象に「Q-Uアンケート」実施。 (3)全ての児童生徒が通える学校を目指し、新たな長期欠席児童生徒を生まないための効果的な取組みや、登校支援が必要な児童生徒への支援の在り方を検討するために福岡市登校支援対策会議を設置。
-----------------	---

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計	30,659	
歳入	特定財源	0
	一般財源	30,659
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30
	R2	
歳出合計	25,159	31,902
歳入	特定財源	0
	一般財源	25,159
	R2	31,902

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	対象となる児童生徒に対して、Q-Uアンケートを実施する。	Q-Uアンケートの結果から、学校生活に何らかの課題を抱え、支援が必要な児童生徒が分かる。 どのような支援を行うかを教職員で共通理解し、速やかに実践することで、児童生徒が抱える課題に早期対応する。	いじめや不登校をはじめとする、子どもが抱える様々な課題やその兆候をいち早く把握し、早期対応を行う。	学校生活に不安を持っている児童生徒を減少させ、全児童生徒が楽しく安全に通える魅力ある学校を作る。
	活動の指標	指標の内容	実績	目標
	Q-U校内研実施率	年度	H30年度	R1年度
		R2年度	最終年度	R年度
	目標	100.0%	100.0%	100.0%
	実績	100.0%	100.0%	100.0%
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%
	目標			R年度
	実績			
	達成率			
成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標	
	年度	H30年度	R1年度	R2年度
	最終年度	R年度		
	目標	60.0%	65.0%	65.0%
	実績	44.8%	47.9%	65.0%
	達成率	74.7%	73.7%	65.0%
	目標			R年度
	実績			
	達成率			

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	不登校対応教員の配置	
所管課	教育委員会指導部教育相談課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 平成20年度に福岡市の不登校児童生徒が1,000人を 越え、不登校の子どもたちへの対応が求められたため。
開始年度	平成21年度	
根拠法令		
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	1-8-3	学校の教育活動に対する満足度	
	再			
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている			
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成			
事業群	いじめ・不登校等対策の充実			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市立の小・中学生
	対象をどのような状態にしたいのか 不登校・不登校傾向のある児童生徒への適切な指導・支援や校内適応指導教室の運営に従事するとともに、学校におけるコーディネーターの役割を担うなど、児童生徒一人一人に合わせた支援を行い、学校復帰や社会的自立に資する。

実施内容(手段)	令和元年度, 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○小呂中, 玄界中を除く中学校67校に不登校対応教員を配置 ○校内適応指導教室の効果的な運営や, 不登校児童生徒への対応力向上のための研修を実施 ・不登校対応教員連絡会の実施:年間10回実施 ○登山, 施設見学など各学校の実態や不登校生徒の実態に応じた自然体験・社会体験活動の実施を支援
----------	--

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計	1,554		
歳入	特定財源	0	
	一般財源	1,554	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳出合計	1,780	1,486	
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	1,780	1,486

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)		
	小呂中・玄界中を除く中学校67校に不登校対応教員を配置する。	不登校・不登校傾向のある児童生徒や保護者との関係を構築し, 適切な指導・支援を行う。 校内適応指導教室の運営に従事する。 学校内外において, 小中連携, スクールカウンセラー, スクールソーシャルワーカーとの連携を図り, コーディネーターとしての役割を担う。	一人一人の現状に合わせた支援により, 不登校・不登校傾向のある児童生徒の状況が改善されたり, 登校に繋がったりする。	不登校・不登校傾向のある児童生徒の様々な状況が改善されることで, 学校へ登校する機会が増え, 社会的自立につながり, 子どもの未来をはぐくむことになる。		
	指標の内容	実績		目標		
	活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	100.0%	100.0%		R6年度
実績		91.0%	97.0%	100.0%	100.0%	
達成率		91.0%	97.0%			
	年度			R 年度		
	目標					
	実績					
	達成率					

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
	不登校児童生徒の復帰率 ※R1は速報値	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	60.0%	65.0%		R6年度
		実績	44.8%	47.9%	65.0%	65.0%
		達成率	74.7%	73.7%		
	年度			R 年度		
	目標					
	実績					
	達成率					

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	学校規模適正化事業	
所管課	教育委員会総務部通学区域課	背景 都心部や周辺部の児童生徒数減少、鉄道沿線や大規模住宅開発地域の児童生徒数増加により、地域によって学校の規模に偏りが生じており、学校規模に起因する様々な教育課題が生じている。そのため、平成21年3月に策定した「福岡市立小・中学校の学校規模適正化に関する実施方針」に基づき、事業を進めている。
開始年度	平成21年度	
根拠法令		
行政計画	第2次福岡市教育振興基本計画	

基本計画			
施策コード	主	1-8-5	
	再		
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成		
事業群	教育・健全育成環境の整備		

学校の教育活動に対する満足度 (R4年度: 50%)

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 学校規模適正化対象校区の児童生徒、保護者、地域住民
	対象をどのような状態にしたいのか 「福岡市立小・中学校の学校規模適正化に関する実施方針」に基づき、学校の統合・分離、通学区域の変更など、校区の実情に応じた手法により、学校規模の適正化を図り、学校規模に起因する教育課題を解決し、教育効果の向上を図る。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・アイランドシティ地区における児童数増への対応をするため、照葉北小学校の分離新設の決定及び新設小学校の用地選定を行った。 ・西都小学校における児童数増への対応をするため、新設小学校の用地取得に向け契約等手続きを進め、新設小学校の基本計画及び校舎基本設計を実施した。また、地域・保護者・学校等の代表で構成する西都地区新設小学校通学区域協議会を設置、開催し、新設小学校の通学区域について検討を行った。 ・元岡中学校における生徒数増への対応をするため、元岡中学校の分離新設の決定を行った。また、新設校の用地選定について検討を行った。 ・平尾小学校における過大規模対策のため、グラウンド整備等を実施した。 ・高取小学校における過大規模対策のため、校舎増築に向けた先行工事に着手した。 ・今宿小学校における過大規模対策のため、校舎増築工事に着手した。 ・旧大名小学校東校舎解体等を実施した。
----------	--

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計	625,705		
歳入	特定財源	228,969	
	一般財源	396,736	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳出合計	372,991	5,854,490	
歳入	特定財源	131,609	5,951,798
	一般財源	241,382	▲ 97,308

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 学校規模に起因する教育課題が生じている小中学校について、地域・学校等関係者と協議を行いながら、対応策を検討・実行していく。	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) 学校規模の適正化が図られる。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) 学校規模に起因する教育課題が解決され、教育効果の向上が図られる。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) 学校の教育活動に対する満足度が向上する。																																																																																		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">活動の指標</td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果の指標(KPI)</td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標の内容	実績		目標		年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	活動の指標	目標				R 年度	実績					達成率					成果の指標(KPI)	目標				R 年度	実績					達成率					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">活動の指標</td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果の指標(KPI)</td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標の内容	実績		目標		年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	活動の指標	目標				R 年度	実績					達成率					成果の指標(KPI)	目標				R 年度	実績					達成率				
	指標の内容		実績		目標																																																																																	
		年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																
活動の指標	目標				R 年度																																																																																	
	実績																																																																																					
	達成率																																																																																					
成果の指標(KPI)	目標				R 年度																																																																																	
	実績																																																																																					
	達成率																																																																																					
指標の内容	実績		目標																																																																																			
	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																	
活動の指標	目標				R 年度																																																																																	
	実績																																																																																					
	達成率																																																																																					
成果の指標(KPI)	目標				R 年度																																																																																	
	実績																																																																																					
	達成率																																																																																					